

## 県央広域本部主要事業説明会

7月22日、熊本県防災センターで行われた『令和6年度・熊本県県央広域本部主要事業説明会』に出席しました。

熊本県は地域振興の推進、住民サービスの向上を効果的、効率的に実現するために直接関わる10の地域振興局とそれを束ねる4つの広域本部（県央・県北・県南・天草）を平成25年から設置しています。因みに県央広域本部は熊本市、宇土市、宇城市、下益城郡、上益城郡を所管しています。

当日は私を含めた熊本市選出の県会議員、県央広域本部からは総務、農林、土木部の役職者、そしてオブザーバーとして熊本市の関係者にも出席していただきましたが、毎年開かれるこの説明会は私にとって重要な会議の1つです。

冒頭、本部長の挨拶、それぞれの部長から今年度取り組む主要事業の説明があり、その後、質疑応答の時間になりました。

私は現在更新・整備が進められている元三町の排水機場について質しました。これまでに排水機場は注ぎ込む天明新川流域の勾配不足と水路が未整備のため、大雨の際に機能を十分に果たすことができませんでした。そこで整備するからには、排水機場が有効に稼働するために熊本市と連携して水路整備も並行、迅速に進めるよう提言したのでした。

日頃住民の皆さんから相談を受ける案件を解消する交渉窓口は

- ① 熊本県
- ② 熊本市
- ③ 両方にまたがる

など様々パターンがあります。しかし住民の皆さんからすると、窓口うんぬんより不便さや危険な状態をより早く解決してもらいたいことが最優先です。

※問題の核心は何か？ 解決までの道筋は？…引き続き小さな声に耳を澄ませ、いち早く察知して過程を説明、共有しながらより良い結果を求めて迅速に取り組みます。



元三地区（熊本市南区元三町）の現況写真 左：ポンプ設備 右：除塵設備



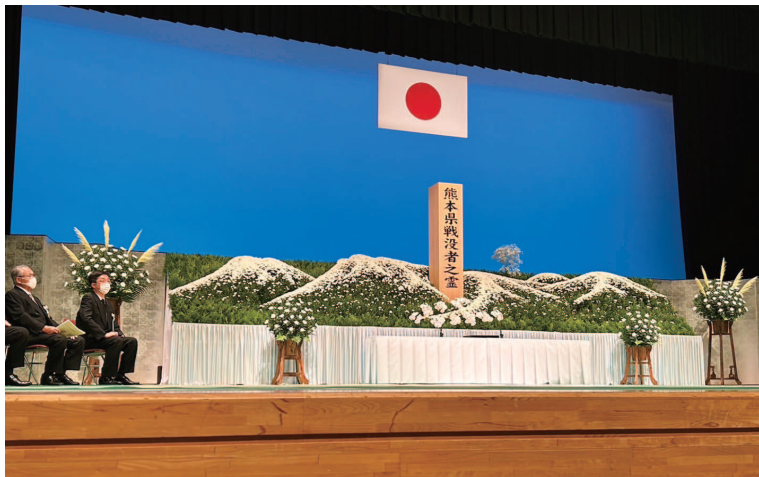
### 殉国者慰霊祭・戦没者追悼式

8月10日、南高江町の殉国者慰霊祭、そして15日は熊本市市民会館で開催された熊本県戦没者追悼式に県議会・厚生常任委員長として出席しました。それぞれ地域のご遺族と住民の皆さん、そして多くの県民が集い戦没者の御霊に祈りを捧げ、平和への誓いを新たにしたのでした。

1940年代の戦争末期、私の母は祖父の仕事の関係で今の中国東北部、いわゆる満州で暮らしていました。それが8月15日の終戦直後から停戦を受け入れないソ連軍の侵攻、日本軍の撤退により満州全土は無法状態と化しました。生活は一変し、祖母と一緒に着の身着のまままで幼い姉妹の手を握り、食うや食わずの薄氷を踏む逃避行が始まりました。

幸い母は大連港から船に乗って京都・舞鶴港に到着、九死に一生を得て母国の地を踏むことができました。この間の暴行、略奪の横行など居留していた日本人が悲惨な目に遭った『地獄絵図』は筆舌に尽くしがたいものがありました。数々の惨事を目の当たりにした幼かった母はその体験、光景を克明に記憶しており、私に「戦争の悲惨さ」を小さい頃から繰り返し話してくれました。

「歴史に学ぶ」と云いますが、歴史に学ばないのが人間であり、だからこそ今も世界各地で戦渦が繰り返されるのでしよう。母が生きながらえたからこそ私が存在し、子どもや孫がこの世に誕生しました。多くの命が失われ、多くの家庭が壊れた歴史を忘れず、平和への感謝を胸に刻み後世に伝えていくことが今を生きる私たちの責務です。先人たちの犠牲の上に築かれた平和を守るため、私たちが何をなすべきかと思いを馳せたのでした。



### 夏祭りを終えて

7月から8月にかけて日本はじめ世界各地で記録的な厳しい暑い日が続く中、夏祭りの案内をいただきました。近年、地球温暖化を裏打ちするように豪雨や熱波などの極端気象現象も多発しています。また日本では「四季」から春と秋が消えて夏と冬の『二季』と云われるようにさえなりました。



50数年前、私が幼かった頃の夏は30℃を超える日はごく稀でした。それが今はどうでしょう：前日の暑さも冷めやらぬ日中は35℃、38℃、処によっては40℃を超える日も見聞きました。もはや異常ではなくこれが『当たり前』といえそうです。

私たちはコロナ禍で接触を絶たれ、イベントを通じたコミュニケーションの果たす役割を再認識しました。その1つの夏祭りは地域の融和と絆を確認し、家族にとっても笑顔を生み出す絶好の思い出作りの機会にもなります。

一方、18〜22年の5年間で年間約1300人が熱中症で命を落とすなど、暑さによる健康被害は年々深刻さを増しています。企画、準備、運営に携わった関係各位に敬意と感謝を表しつつ、以前と異なる「命を奪う酷暑」を踏まえると、リスク対応に一考の余地があるように思ったのでした。

